

第2期(2004年度)SSCS (Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2004年6月~2005年6月)

団体概要

記入日 2004年3月

| | |
|----------------|---|
| 団体名 (小さな学校) | 特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター |
| 代表者・ 連絡担当者名 | 役職 代表理事 氏名 赤石和則 連絡担当者名 中村陽一、 ^{こすこう} 越河澄子 |
| 団体住所等 | 〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町 4-25-15 小松ビル 301 電話：048-835-4311 FAX：048-835-4312 E-mail：office@sa-npo.org URL：http://www.sa-npo.org 連絡のつく曜日・時間帯：平日午後 |
| 設立時期 | 1999年10月設立 |

団体の活動目的と活動内容

新しい地域社会の仕組みの開発・提案および市民による社会貢献/社会変革に関する活動の支援を行うことを通して、市民自らが社会的課題を解決し、新しい価値を創造する市民社会の実現をめざしています。

「埼玉NPO連絡会」を母体として、1999年、県内初の「中間支援」組織として設立。以来、県内1000人を超える市民とともに市民主体のまちづくりを進めることをめざした「さいたま介護保険サポーターズクラブ」、400人の市民とともに進めた介護保険利用者実態調査と地域福祉計画市民研究会の運営、県内950の市民活動グループを紹介した「埼玉NPOつながリスト」発行、NPOに関する各種講座・フォーラム・研究会(市民的調査研究術講座、さいたまNPOフォーラム、NPOと自治体を考える自主研究会など)の開催、NPO運営や法人化に関する相談活動などを通じて、市民活動の支援と促進のための社会的基盤整備の活動を進めています。

活動カリキュラム

| 活 動 名 | ネットワーキングを形にするものとしてのNPO体験 |
|-----------------------|--|
| 主な活動場所 最寄駅名と駅からの距離 | 上記事務所およびさいたま市内 最寄駅：JR浦和駅から徒歩7分 |
| スケジュール 2004年6月 | < 活 動 な ど > (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります) ・SSCS 入校式・事前研修(第1期インターン修了報告会と併催)に参加して、他のインターンとの交流・理解を深める。 インターン開始 |
| 6月~8月 | ガイダンス：さいたまNPOセンターとその活動、NPO前史 市民とネットワーキング、ネットワーキングを形にするものとしてのNPOとは？ 埼玉のNPO・市民活動を知る、市民活動の「現場心得」 ・「さいたまネットワークサロン(仮称)」プロジェクトの一員として立ち上げに参加 ・「さいたまNPOフォーラム2005」実行委員会の一員として立ち上げに参加 * この時期、a)会議議事録をとる、b)資料管理をする、c)会議と会議の間の期間に必要な実務を進める、等のOJT研修をしていただきます。 |
| 9月 9月~11月 | ・SSCS 中間研修に参加して他のインターン・団体との交流・理解を深める。 ・「さいたまネットワークサロン」開催に関わる実務と進行補助 * これと関わるOJT実務は、開催通知を行う、開催場所の決定、講師との打ち合わせ、広報、参加状況の確認と促進、当日の進行準備、会場設営、サロンのまとめと記録、センターのニューズレターへの報告執筆などです。 ・「さいたまNPOフォーラム2005」実行委員会の中での一定の役割分担 * これと関わるOJT実務は、担当部分の仕事の準備とまとめが中心です。 |
| (次頁につづく) | |

| | |
|--|---|
| <p>(スケジュールつづき) 12月～2005年2月</p> | <p>・「さいたまネットワークサロン」開催実務と進行補助 * 上記OJTに加え、この企画によってもたらされる成果は何か？ その社会的意味とは？ どのような新しい価値の創造につながりうるのか？ 等々について、サロン関係者（県内市民活動団体・NPO関係者、センター理事・スタッフ）と意見交換、討議のうえで考え、ショートレポートにまとめていただきます。</p> <p>・「さいたまNPOフォーラム2005」の開催と運営に関わる実務と進行補助 * これと関わるOJT実務は、当日運営に必要な仕事を整理し、その中のいくつかに関しては実際に担当していただくこと、そして当日運営に関わることです。</p> |
| <p>2005年3月（～6月）</p> | <p>・「さいたまネットワークサロン」「さいたまNPOフォーラム2005」両事業のまとめに関わる実務 * これと関わるOJT実務として、企画し運営する仕事のまとめ方（評価、今後の課題整理）を学習し、両事業に対する感想と提言をまとめていただきます。</p> <p>ふりかえり： インターンを通して学んだこと、自分としての課題、さいたまNPOセンターへの提言、をスーパーバイザー、メンターをはじめ、センター理事・スタッフとの対話を通じてまとめていただきます。</p> |
| <p>6月</p> | <p>・SSCS 修了報告会で活動の成果を発表 （活動終了後、報告書を提出）</p> |
| <p>総括的な受け入れ指導者名（スーパーバイザー）：中村陽一 日常的な受け入れ担当者名（メンター）：越河澄子、中村陽一他スタッフ1名（予定）</p> | |

インターンに期待すること（求められる専門性、技能などについて）

特別な専門性や技能は必要ありません。予断や先入観をもたずに、多様な市民活動・NPO関係者とのふれあいのなかで、自らの歴史的・社会的な制約としての「殻」を打ち破っていくような明るいたくましさ、他者への関心と配慮をもてる方を期待し、歓迎します。きっと、あなたが今まで出会ったことのないタイプの面白い「大人」（やときには同世代人）と遭遇し、共生のアート（芸芸）としてのネットワークングを机上ではなく体験的に学ぶことができるでしょう。

活動日について

基本的には週2日程度活動していただきたいと思います（ただし、在学等々の休業期間については相談によって）。活動時間の上限として週10時間（月40時間）までを目安としたいと思います。

団体の活動を理解するために役に立つと思われる資料や情報

当NPOセンター発行の書籍・報告書（当センターで閲覧可。日本NPOセンター資料室に一部あり）
中村陽一・日本NPOセンター編『日本のNPO/2000』、『日本のNPO/2001』日本評論社
当センターWEBサイト

その他

若い世代の皆さんは、どのようにして市民の活動に関心をお持ちになったのでしょうか？ もしかすると、NPOから入って、関心を持ったかもしれませんね。もちろん、それでいいのですが、今日のNPOに至る長い長い市民の動きの歴史や背景があり、いまも、一括りにはできない多彩な活動が、多様な課題や問題をきっかけに、特に地域では繰り広げられているということ、さまざまな「現場」や人と接するなかから、ぜひ体験的に知っていただきたいと思います。

と同時に、それらの具体的な活動やそこで動く個々の人たちが、何を願って、何のために動いているのか、（簡単にわかったつもりにならず）対話や観察のなかでしっかりと目を凝らしていただきたいとも思います。

そのうえで、今回、テーマにもなっているネットワークングということの現代的な意味を一緒に考えてみましょう。それは、いま、さいたまNPOセンターが地域で活動を進めるうえで真剣に考えていきたい大切なテーマの一つでもあります。

それらをもとに、NPOとはいまの社会にとって、地域にとって、日本および日本人にとって何なのか、その位置や果たすべき役割について、ローカルなところからグローバルな視野に至るまで射程に収めることを意識しつつ、意見交換し、ともに考えていくことで、さいたまNPOセンターも学んでいくつもりです。

スケジュール欄にも書いたとおり、日常的には、実務をOJTによってしっかり身につけていただくことも今回の眼目です。実務のプロセスを通じて、あなたの若い感覚によって、思いもかけぬアイデアや提案が出てくることも期待しています。